（別紙様式）　　（Ａ３判横）

平成２８年度　学校自己評価システムシート（県立いずみ高等学校）

目指す学校像	豊かな地球環境を未来に引き継ぐという明確な意図のもと、グローバルな視点を持ち、生物資源の確保と活用及び、環境の保全と創造に貢献できる人材を育成する。

重点目標	1　授業を充実させ、生徒の学習意欲を高め、学力向上を目指す。 2　キャリア教育を推進し、生徒の進路実現を図るとともに、生きる力を育成する。 3　規範意識を高めるとともに、他人を思いやる心等、豊かな心を育成する。 4　本校の教育内容や特色を地域社会に発信し、地域社会と連携した教育活動を推進するとともに、学習意欲のある生徒の募集に繋げる。

達成度		
	A	ほぼ達成　（８割以上）
	B	概ね達成　（６割以上）
	C	変化の兆し　（４割以上）
	D	不十分　（４割未満）

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	３　名
	生徒	１０　名
	事務局（教職員）	９　名

※ 重点目標は３つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目（年度達成目標を意味する。）は複数設定可。
※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価

年度目標

番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標
1	本校の生徒の学力差は非常に大きい。学習習慣が身についている生徒がいる一方、理解や学習意欲が低い生徒も多い。そこで、丁寧できめ細やかな指導に取組み、魅力ある授業の実現に向けて、指導方法の工夫、改善を図るとともに、資格取得を活用し、生徒の主体的な学習を促し、学習意識の向上を目指す必要がある。	○学力向上に組織的に取り組み、生徒の学習意欲を高めるとともに、原級留置者を０にする。	①公開授業や研修会をとおして授業力向上に向けて組織的に取組む。 ②就職から大学進学まで視野に入れた教育課程の見直しを行う。 ③学習の習慣化や資格取得に向けた効果的な補習等の充実。	①授業の満足度とわかりやすさがともに８割を超えたか。 ②進路希望に即した、選択科目のモデルプランを作成できたか。 ③資格取得や補習等のサポート体制が組織的に構築できたか。
2	卒業生の進学決定率９６％。就職決定率は９９％である。進路指導部を中心とした組織的な進路指導により、進路未決定者が減少している。 また、進路希望実現１００％のため、幅広い進路実現が可能な支援体制を組織的に構築する必要がある。	○全生徒の進路希望を実現させるとともに、生徒一人ひとりを伸ばすきめ細やかな指導を組織的に行う。	①進路指導部・学年・各学科の連携と役割分担を明確にした進路指導を行う。 ②生徒の進路実現に向けた、補習や面接指導を充実させる。 ③生徒をその気にさせる進路情報指導事業を実施する。	①３年間の系統的・継続的な進路指導が改善できたか。 ②進路決定率は向上したか。 ③進路決定前後の指導やガイダンス指導を効果的に実施できたか。
3	継続的な生徒指導をとおして、全体的な生徒指導件数は、前年度より２１％減り、組織的な取り組みの効果が表れている。しかし、服装指導や携帯電話、ＳＮＳマナーに問題のある生徒が見られる。 継続して規範意識を高め、社会性を身につけ豊かな心を育むことが必要である。	○徹底した生徒指導の実施を継続することによって、基本的な生活習慣の確立と定着を図る。	①生徒指導部と学年が連携し、継続して挨拶、遅刻、服装、頭髪、自転車、携帯電話の指導を行う。	①遅刻件数、服装・頭髪指導件数と自転車の事故件数が減少したか。
		○各種事業や部活動をとおして社会性を身に着け、他者を思いやる豊かな心を育む。	①各種事業や部活動への積極的な参加を促し、生徒一人ひとりの個性伸長と、社会性の育成を図る。 ②生徒会活動、農業クラブ活動などをとおして生徒の主体的な取り組みを推進する。	①各種事業への積極的な参加が見られたか。 ①部活動への加入実績と活動実績が向上したか。 ②具体的に生徒が主体的となった取り組みが行われたか。
4	HPや各種交流会活動、学校説明会、出前授業などにより、積極的に本校の特色ある教育活動のＰＲを行った。目的意識の高い生徒募集のため、さらに学校説明会の充実を図る。	○本校の特色ある教育活動を様々な機会や報道機関を活用して、積極的に発信していく。	①HP の充実を一層図り、生徒の活躍を積極的にＰＲする。 ②学校説明会、体験授業、中学校訪問等の改善を図り効果的なＰＲを行う。 ③学校案内の見直し。	①HPの更新回数１００回以上。 ②入試倍率が1.1倍を超えたか。 ③学校案内の内容が充実したか。

年度評価（３月１５日 現在）

番号	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	アンケートからも学習意欲は改善傾向にあり、学習の習慣化が窺える。また、補習に取組む生徒も増加傾向にある。 ①生徒の授業満足８４％、わかりやすさ７９％である。また、目標を持ち学習に取り組む生徒も８９％あった。 ②教育課程検討委員会を８回実施し、就職と進学に対応できる教育課程の編成に取組んでいる。 ③生徒の補習、資格取得体制の満足度がそれぞれ８７％、８９％であり、欠点保有者は昨年と同程度である。	B	課題 ・家庭学習をほとんどしない生徒が３８％いる。（昨年４５％） ・目標を持つことができないでいる生徒が１３％ある。 改善策 ・授業改善に組織的に取組み生徒の学習意識の向上を図る必要がある。 ・教務部や教育課程検討委員会を中心に進路実現しやすい教育課程を構築する必要がある。
2	３年間の計画的な指導により国立大１名、公務員４名合格するなど、３学年生徒の進路をほぼ希望通り実現できた。 ①進路指導部の構成を学科・学年をバランスに配置し、連携を取りやすい組織にした。 ②進学決定率９７％（昨年９６％）、就職決定率１００％（昨年９９％）であり、組織的な進路指導の成果があった。	A	課題 ・進路指導部・学年・各学科の連携と役割を一層充実させる。 改善策 ・３年間の組織的・継続的な進路指導を構築していく必要がある。 ・保護者の本校への期待値で進路指導の充実が３３％に留まっている。渉外部、進路指導部を中心にＰＴＡ会誌等でも進路情報を周知する。
3	全体的にその場で正す指導はできたが、指導の効果が継続しない生徒も見られる。ＳＮＳ関連のトラブルは増加した。 ①遅刻件数は増加しているが特別指導の件数は昨年度より減少した。 行事運営に多くの生徒が参加し、生徒が主体的に取組み、活躍する場面が見られるようになってきた。 ①部活動参加率５７％であり、一層の活性化が必要である。 ②農業クラブ幹事校として積極的に活動し、生徒の社会性や指導性を高めた。	B	課題 ・引き続き、継続した生徒指導が必要である。 ・部活参加率がまだ不十分である。 改善策 ・生徒指導全体について、統一歩調統一行動を一層深める。 ・スマホ利用について継続して注視する。 ・魅力的な部活動の運営を行う。
4	学校ＨＰや学校説明会において適切な情報を適宜提供し、本校の特色を発信できた。 ①ＨＰの更新回数１００回以上を達成した。ＨＰのアクセス数も２万５千回以上あり、効果的なＰＲができつつある。 ②入試倍率 1.09 倍であった。 ③学校案内を刷新し、各学科の学習内容や進路などの特色をわかりやすく整理した。	A	課題 ・本校の特色と魅力を、十分に広報できていない。 改善策 ・学校説明会充実のため、日程、内容について再検討していく。 ・各学科のＨＰ内容をさらに高める。

学校関係者評価

実施日　平成２９年３月１７日

学校関係者からの意見・要望・評価等

番号	
1	・学力向上の組織的な取組について、中学校との相互の授業公開を一層深めることが重要である。 ・生徒の作品や活動内容の掲示などを工夫し、生徒の意欲を喚起す取組みが充実すると良い。 ・教育課程検討員会の検討事項を着実に反映させることが重要である。生徒はもちろん先生にも学校生活が「楽しい」と思える学校なって欲しい。 ・朝勉強会のみではなく、放課後も実施してくれるといいと思う。
2	・進路決定率は素晴らしい数値である。ただし、進路決定後の定着が気になる。 ・指定校の情報が、保護者に届くようにしてほしい。 ・進路指導室で求人票を見ている時に、意識が変わり視野が広がった。今後も、丁寧な進路指導をお願いしたい。
3	・部活動について、先生は忙しいので外部指導者を入れてみてはどうか。 ・生徒指導こそ継続的に地道な努力が成果につながると思う。継続しての指導をお願いしたい。 ・イオンとの共同商品開発について、ぜひ継続して実施してもらいたい。
4	・ＨＰはパソコンのサイトは見やすいが、携帯は見づらいので改善してもらいたい。 ・ＨＰについて、特に「学科紹介」、「生徒会・部活動」、「ＰＴＡ」の項目の改善を強く希望したい。